

# Market Flash

2021年3月17日(水)

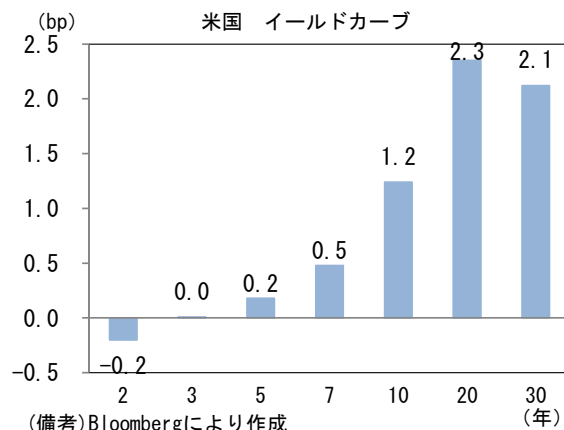
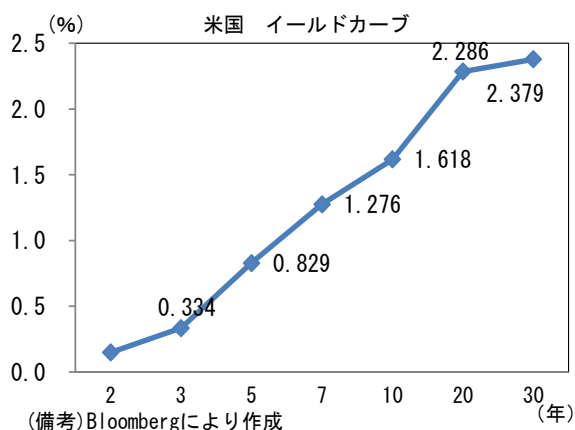
## 1.米消費回復はもはや所与 2.レストラン予約状況から想像できること

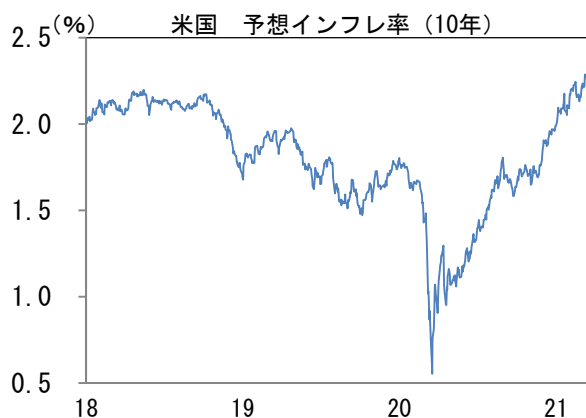
第一生命経済研究所 調査研究本部 経済調査  
主任エコノミスト 藤代 宏一 (TEL:050-5474-6123)

- ・日経平均は先行き12ヶ月30,000程度で推移するだろう。
- ・USD/JPYは先行き12ヶ月105程度で推移するだろう。
- ・日銀は、現在のYCCを長期にわたって維持するだろう。
- ・FEDは、2021年は現在のペースで資産購入を継続するだろう。

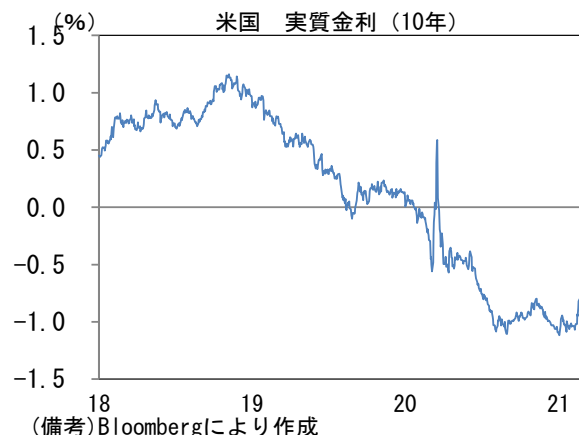
### <金融市場>

- ・前日の米国株はまちまち。NYダウは(▲0.4%)、S&P500は(▲0.2%)、NASDAQは(+0.1%)で引け。前日までの7日間にNYダウが2000ドル超上昇するなど短期的な過熱が強まるなか、この日は利益確定売りが優勢。もっともNASDAQはグロース株の買い戻しによって上昇。VIXは19.8へと低下し、2月12日以来の低水準に回帰。社債市場はIG債(投資適格)が堅調、HY債(投機的格付)はやや軟調。
- ・米金利カーブはベア・スティープ化傾向。超長期ゾーン金利は20年債入札前後に一時低下するも、引けにかけて再び上昇。予想インフレ率(10年BEI)は2.304%(+2.9bp)へと上昇し、パンデミック発生後の最高を更新。債券市場の実質金利は▲0.688%(▲1.6bp)へと低下した。



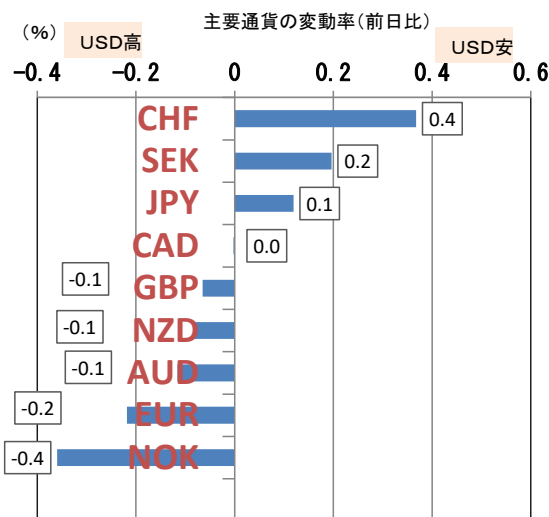


(備考) Bloombergにより作成

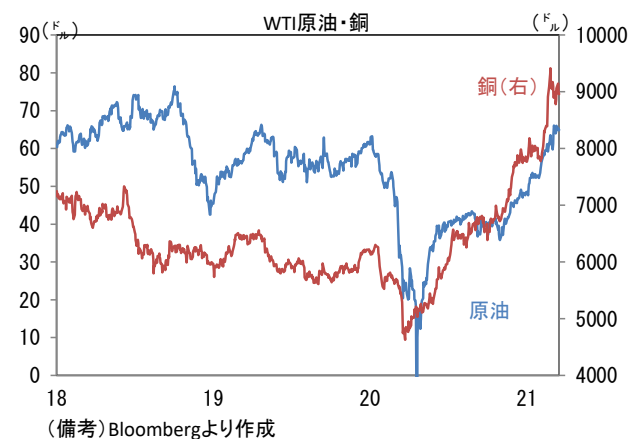


(備考) Bloombergにより作成

- 為替 (G10通貨) はUSDの強さが中位程度。USD/JPYは109前半まで小幅に上昇、EUR/USDは1.19近傍まで低下。コモディティはWTI原油が64.8ドル(▲0.6ドル)へと低下し、銅は8960.5ドル(▲184.0ドル)へと大幅に低下。金は1730.9ドル(+1.7ドル)へと上昇した。安全資産「金」と景気の強さを反映する「銅」の相対価格は低下。ビットコインは下落。



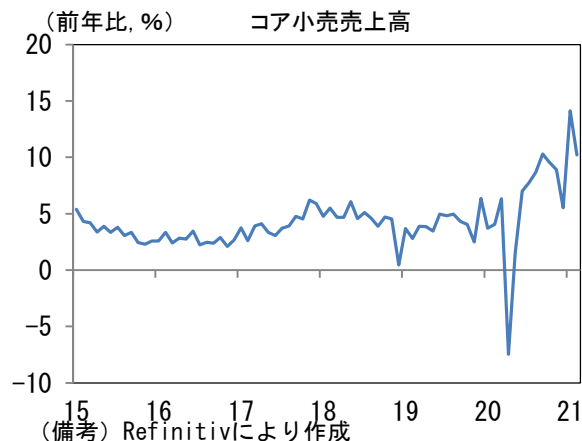
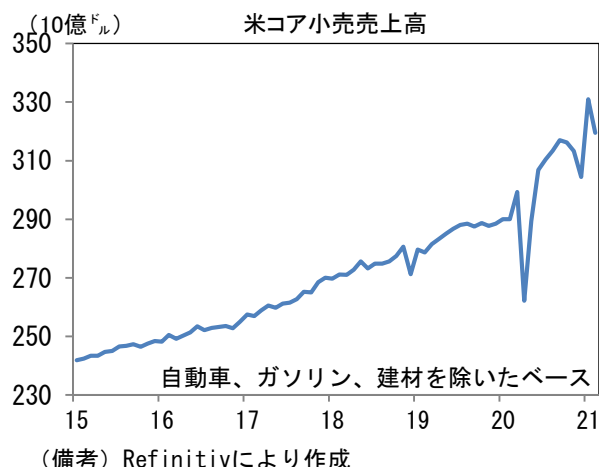
(備考) Bloombergより作成



(備考) Bloombergより作成

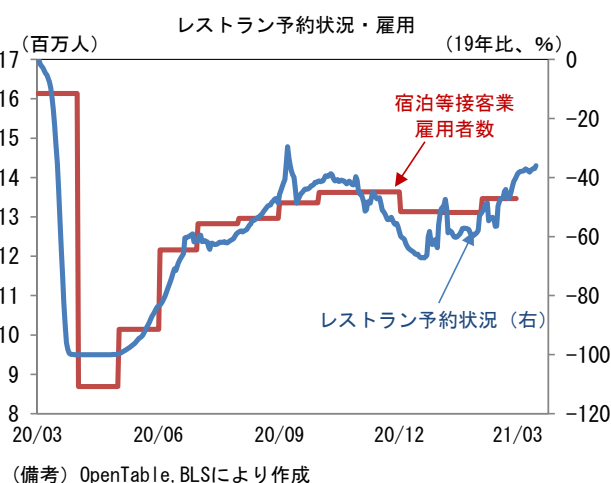
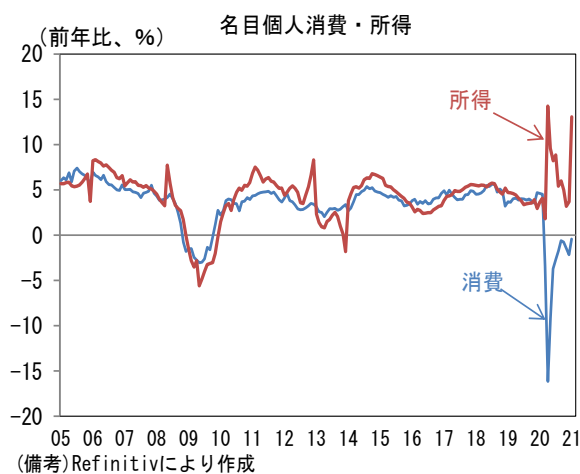
### <経済指標>

- 2月米小売売上高**は前月比▲3.0%と減少。600ドルの給付金効果によって急増した1月の反動がでた形。自動車・ガソリンを除いたベースも▲3.3%と減少した。そこから建材等を除いたコア小売売上高 (GDP個人消費の推計に用いられる) は前月比▲3.5%と減少も、3ヶ月前比年率では+3.5%と堅調、前年比では2桁の増加トレンドにある。そこに3月は本日17日より支給が開始される1400ドルの給付金効果が加わる。失業保険の上乗せ給付の延長もあり、マクロの家計収入は一段の増加が必至。これらを踏まえると個人消費の加速はもはや所与と言っても過言ではないだろう。



### <注目ポイント>

- ・ 上述のように米個人消費は底堅さを維持しており、3月以降は一段の加速が予想される。空前の伸びを示しているマクロの家計収入が政策支援によって一段と増加することは既成事実であるが、より重要なことにここからは賃金の回復も期待される。最近のレストラン予約状況の好転に鑑みると現在、大量の失業を生み出している飲食等接客業の雇用は3月以降に回復力を増して行く可能性が高い。労働集約的な飲食業は、客足の回復が雇用増加に直結する傾向が強いことから、コロナ感染状況の改善が続く下で力強い回復が期待される。



本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所調査研究本部経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。

